編集室

明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

昨年の4月号より「水産宮崎」の担当となり、多くの方々の協力を得て今年も新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと平成から令和へと元号が変わり、消費税の増税や、進まない震災復興に加え、過去にないほど発生した台風災害など災害の多い年でした。そのような中、日本で初めて開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表チーム初のベスト８進出やテニス界では大坂なおみ選手の世界ランキング１位、ワールド・ボクシング・スーパーシリーズ（WBSS）バンタム級を制した井上尚弥選手等、日本代表による活躍が日本中を大いに盛り上げてくれました。

さらに、この盛り上がりに引き続き、2020年は二度目となる東京オリンピックの開催が予定されており、日本代表の方々の更なる活躍に期待したいと思います。

一方、水産業界を振り返りますと、スルメイカを代表に外国漁船による大量漁獲や違法操業問題、台風の多発、サンマやカツオの不漁、中でも本県においては、カツオ一本釣り船のビンチョウマグロが歴史的不漁となり、大変厳しい１年となりました。

そのような状況の中、我々業界に必要なことは、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報発信を行い、改めて魚食文化に気付いて頂くことで魚離れを少しでも防ぐことが重要ではないかと考えます。

県内を取り巻く環境が、漁業収益の減少や後継者不足等益々厳しい状況にあり、この「水産宮崎」が、漁業者の事業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとして、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

最後に皆様方の健康と操業の安全、大漁をご祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせて頂きます。

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.